

〈授業デザイン構想例 2〉

小学校 第4学年 国語 C 読むこと(説明的な文章)教材名「ウミガメの命をつなぐ」
「ここが〇〇！生き物のひみつを友達に紹介しよう」



教科としての特性

教科の目標では、まず、国語科において育成を目指す資質・能力を国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。 【小学校指導要領解説 国語編 P11】

本教科で育成を目指す資質・能力

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 【小学校指導要領解説 国語編 P11】

本教科で働かせる見方・考え方

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。 【小学校指導要領解説 国語編 P12】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

「言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するとしているのは、この考え方を示したものである。」という記述からは、どの教科を指導する際にも言語活動(言語による活動＝国語科)が重要であることが分かる。そのことを踏まえると、「持続可能な社会の創り手」を育成していくには、「国語で正確に理解し適切に表現する育成する資質・能力を育成する」ことがより必要になってくるだろうと考える。 【小学校指導要領解説 国語編 P12】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>学習のゴールである「自分が興味をもった生き物」紹介をする際に、その選んだ理由について叙述を基にしながら自分の考えをまとめる。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>主教材での学習指導を行いながら単元を通して並行読書にも取り組むことで、それぞれの興味関心に応じた生き物(学習)に取り組む。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>文章を読んで感じたことや考えたことを共有することで、自他の相違に気付き、一人一人の感じ方や考え方について考えて、そのよさを見付けることで自己に生かしていく。</p>
--	---	--

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

【本単元全体で活用が想定されるICTの機能】

電子黒板	デジタル教科書	検索機能	入力機能	実物投影機
カメラ機能	思考ツール	スライド機能	参考動画	学習動画
共同編集(共有)機能		コメント(メッセージ)機能		

視点4 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動」を展開するには、国語科の内容〔思考力、判断力、表現力等〕の内容「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各々の指導事項や内容に留意し、領域の構成や学習過程に着眼していくとよい。各々の学習過程に応じた学習活動を位置付けながら、「どの学習活動を通して、どのような資質・能力を育成していくのか」を具体的にイメージしながら構想していくと授業がデザインしやすくなる。

単元名：「ここが〇〇！生き物のひみつを友達に紹介しよう」 全9時間

流れ	授業の流れ（第8／9時） 本時における学習過程「考えの形成」	指導の 個別化	学習の 個性化	協働的 な学び	ICT の活用
導入	1 前時までの学習を想起する。 ・「学習のゴール」を再確認し、学習進行表で全体の流れを確認したり、モデルを提示したりしながら、本時の学習のめあてと、その方法に導いていく。				
	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(仮) 自分が選んだ生き物の興味をもったところと、その理由（叙述）をはっきりさせて、自分の考えをまとめよう。</div>				
	3 めあての達成に向けて、学習の流れを確認する。（意見交換する目的と方法を確認） (1) ホップ：理由を確かめる (2) ステップ：意見交換をする (3) ジャンプ：自分の考えを書く				
展開	4 ホップ 個々で興味をもったところと、その理由に基づく叙述を確かめて、見直しをする。				
	5 ステップ グループで意見交換をする。 【方法】平行読書で自分と同じ本や異なる本を選んだ子供同士で意見を交換し合う。 【目的】お互いの考えの理由を確かめて、更に広げたり深めたりする。				
	6 ジャンプ お互いの気付きを生かして、自分がどうしてそのように考えたのか、その理由について自分の考えをまとめる。				
終末	7 本時の学習を振り返る。 ・叙述に基づき、理由（生き物の特徴や成長過程、想像したことや考えたこと）を明確にすることができたかどうか、本時のめあてと正対しながら振り返る。				
	8 次時の学習の見通しをもつ。 ・次時の学習内容を伝える。 ・第8時迄に積み重ねてきた自分の考え（考えの形成）に基づきながら、共有していく。				